

**令和6年度実施
(2024年度実施)**

**雇用主アンケート
調査報告書**

**令和6年（2024年） 9月
別府大学短期大学部 就職委員会**

はじめに

本学の雇用主アンケートは、在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及びディプロマ・ポリシーに照らして教育の成果や効果を検証し、教育力の向上や改善に資することを目的として、卒業生の雇用先にご協力をお願いして実施しています。

また、同時期に実施している卒業生アンケートについても同様の目的で、卒業生の協力のもと、本学の教育内容の改善に活用させていただいております。

この雇用主アンケートは、短期大学部を卒業した全ての卒業生の雇用先にアンケートの協力依頼を行い、本年度も雇用先から多くの貴重なご意見をいただきました。

この場を借りて、お忙しいなかアンケート調査にご協力いただいた本学卒業生の雇用先の方々に心よりお礼申し上げます。

本委員会で作成した「雇用主アンケート調査報告書」が、学生教育においてディプロマ・ポリシーである、①教養(人間性の形成に資する幅広い知識、技能)、②専門力(専門に関する基本的な知識、技能)、③汎用力(社会で活躍できる汎用性のある能力)の修得に活用され、本学の教育の質向上の一助になることを心から願っております。

令和6年(2024年)9月

別府大学短期大学部 就職委員会

目次

卒業生・雇用主アンケート調査 実施要領	1
雇用主アンケート調査結果	
（１）食物栄養科調査結果	2
（２）初等教育科調査結果	10
「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領	18
別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー	19
<u>食物栄養科「雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価</u>	21
1. <u>教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）</u>	21
2. <u>専門力（専門に関する基本的な知識、技能）</u>	21
3. <u>汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）</u>	22
<u>初等教育科「雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価</u>	25
1. <u>教養（人間性の形成に資する幅広い知識・技能）</u>	25
2. <u>専門力（専門に関する基本的な知識・技能及び態度）</u>	25
3. <u>汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）</u>	26

別府大学短期大学部 卒業生・雇用主アンケート実施要領

(目的)

第 1 条 学生の卒業後の進路・就職状況等から、在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及びディプロマ・ポリシーに照らして教育の成果や効果を検証し、教育力の向上や改善に資することを目的とする。

(所轄部署)

第 2 条 当該調査に関する所轄部署は、学生事務部（担当部：キャリア支援課）とし、関連部署（FD 委員会および就職委員会）と連携して行う。

(調査対象)

第 3 条 調査対象は以下の 2 つとする。

- (1) 本学を卒業した過年度の卒業生
- (2) 卒業生の就職先、学生が就職活動を行っている企業・団体等

(調査方法)

第 4 条 調査方法は以下の手順で行う。

- (1) キャリア支援課で送付先を抽出する。
- (2) 質問項目は、FD 委員会および就職委員会でディプロマ・ポリシーを反映させ検討・作成する。
- (3) アンケート実施期間は、第 2 四半期から第 4 四半期の一定期間（10 日間程度）を定め、対象者に送付する。
- (4) 送付方法は、郵送または対象者に届く効果的な方法にて送付する。
- (5) 回収方法は、インターネットやファックス等を用い、対象者が回答しやすい方法にて行う。

(集計・分析)

第 5 条 集計及び分析は下記の部署が担当し、企画運営会議へ報告する。

- (1) 卒業生・雇用主アンケートの集計は、キャリア支援課が担当する。
- (2) 卒業生アンケートの分析および報告書作成は、FD 委員会が担当する。
- (3) 雇用主アンケートの分析および報告書作成は、就職委員会が担当する。

(公表)

第 6 条 企画運営会議は報告に基づき、教授会の儀を経て、年度内に大学ホームページに掲載公表する。

(その他)

第 7 条 調査方法や質問事項等については、本調査の目的を逸脱しない範囲で修正、変更等を行う。

以上

附 則

この要領は、令和 3 年 4 月 21 日から施行し、令和 2 年 8 月 1 日から適用する。

雇用主アンケート

調査方法 アンケート協力依頼文書を郵送し、WEBによる回答を集計

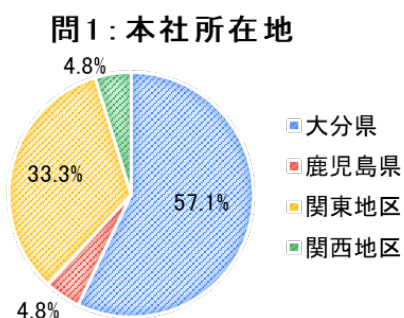
調査期間 アンケート協力依頼文書発送日(令和6年7月26日)から同年
8月16日回答締め切り

調査対象 各科とも令和5年度卒業生の就職先及び就職活動の対象先
食物栄養科 32施設(社) 回収率 65.6%
初等教育科 135施設(社) 回収率 47.4%

食物栄養科【送付:32 回収:21 回収率:65.6%】

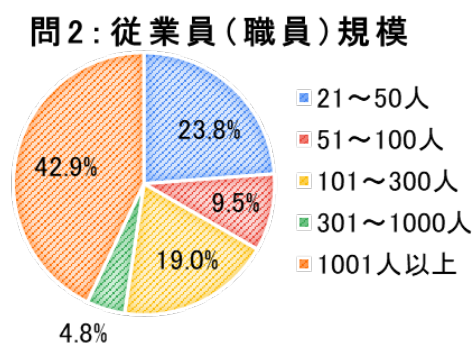
問1:本社所在地

所在地	回答数	割合
大分県	12	57.1%
鹿児島県	1	4.8%
関東地区	7	33.3%
関西地区	1	4.8%
合計	21	



問2:従業員(職員)規模

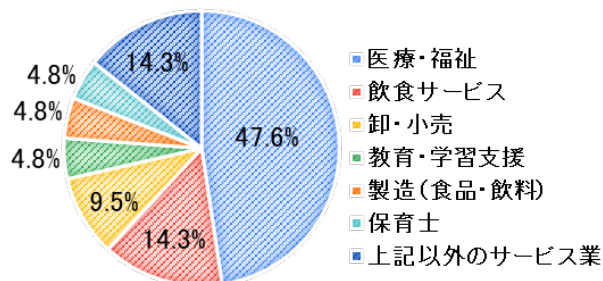
従業員数・職員数	回答数	割合
21~50人	5	23.8%
51~100人	2	9.5%
101~300人	4	19.0%
301~1000人	1	4.8%
1001人以上	9	42.9%
合計	21	



問 3:主たる業種

業種	回答数	割合
製造(食品・飲料)	1	4.8%
卸・小売	2	9.5%
飲食サービス	3	14.3%
教育・学習支援	1	4.8%
医療・福祉	10	47.6%
上記以外のサービス業	3	14.3%
保育士	1	4.8%
合計	21	

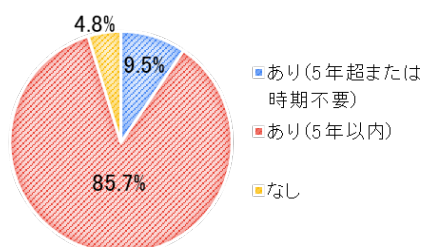
問 3: 主たる業種



問 4:本学からの採用実績

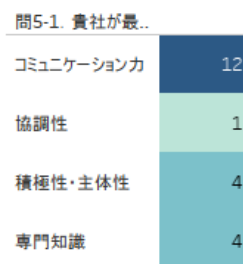
採用実績	回答数	割合
あり(5年超または時期不要)	2	9.5%
あり(5年以内)	18	85.7%
なし	1	4.8%
合計	21	

問 4: 本学からの採用実績



問 5-1:最も求める(重視する)能力、問 5-2:2 番目に求める(重視する)能力、問 5-3:3番目に求める(重視する)能力

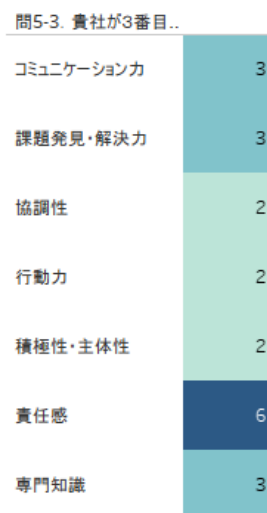
問5-1. 貴社が最も求める(重視する)能力はどのような能力ですか



問5-2. 貴社が2番目に求める(重視する)能力はどのような能力ですか



問5-3. 貴社が3番目に求める(重視する)能力はどのような能力ですか



問 6-1:採用において最も重視する事柄、問 6-2:2 番目に重視する事柄、問 6-3:3 番目に重視する事柄

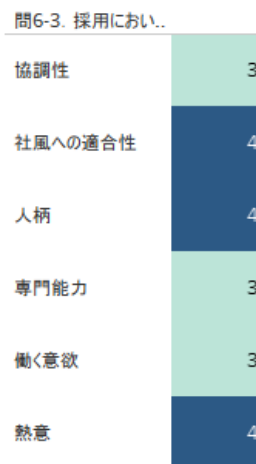
問6-1. 採用において最も重視する事柄は何ですか



問6-2. 採用において2番目に重視する事柄は何ですか



問6-3. 採用において3番目に重視する事柄は何ですか

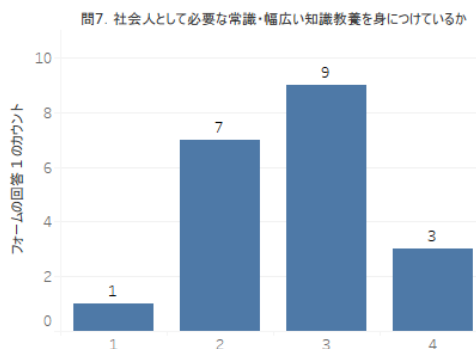


「本学から採用実績がある企業様へ、本学からの採用者について、次の項目について評価願います」

「問7～問16の項目について1～4で回答してください」

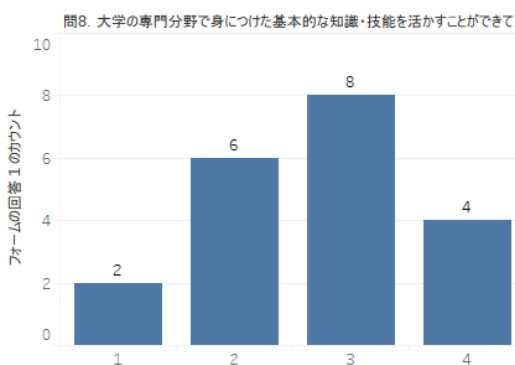
問7. 社会人として必要な常識・幅広い知識教養を身につけているか

数値	回答数	割合
1(低い)	1	5%
2	7	35%
3	9	45%
4(高い)	3	15%



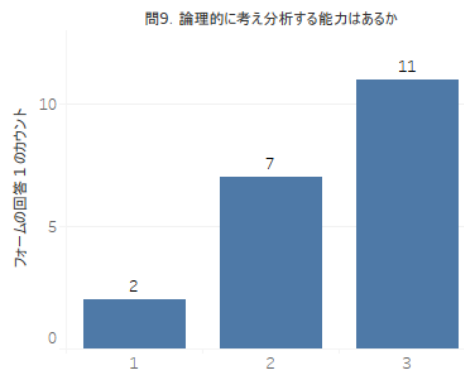
問8. 大学の専門分野で身につけた基本的な知識・技能を活かすことができているか

数値	回答数	割合
1(低い)	2	10%
2	6	30%
3	8	40%
4(高い)	4	20%



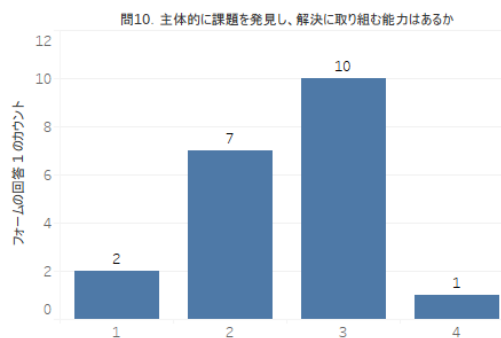
問9. 論理的に考え分析する能力はあるか

数値	回答数	割合
1(低い)	2	10%
2	7	35%
3	11	55%
4(高い)	0	0%



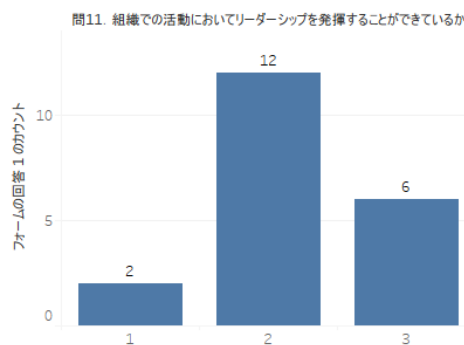
問 10. 主体的に課題を発見し、解決に取り組む能力はあるか

数値	回答数	割合
1(低い)	2	10%
2	7	35%
3	10	50%
4(高い)	1	5%



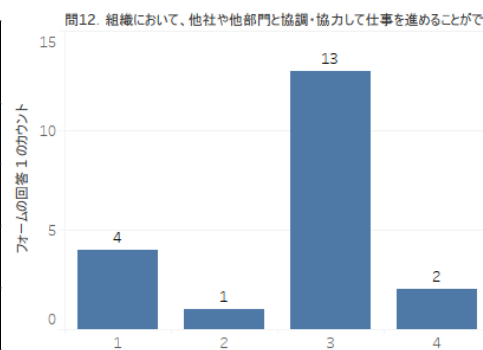
問 11. 組織での活動においてリーダーシップを発揮することができているか

数値	回答数	割合
1(低い)	2	10%
2	12	60%
3	6	30%
4(高い)	0	0%



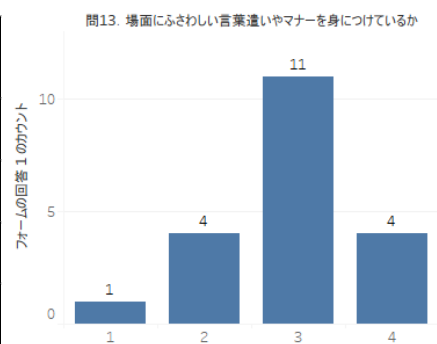
問 12. 組織において、他社や他部門と協調・協力して仕事を進めることができるか

数値	回答数	割合
1(低い)	4	20%
2	1	5%
3	13	65%
4(高い)	2	10%



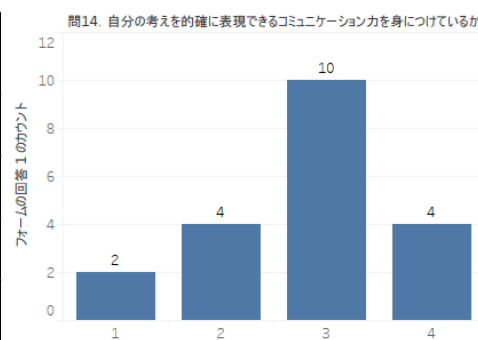
問 13. 場面にふさわしい言葉遣いやマナーを身につけているか

数値	回答数	割合
1(低い)	1	5%
2	4	20%
3	11	55%
4(高い)	4	20%



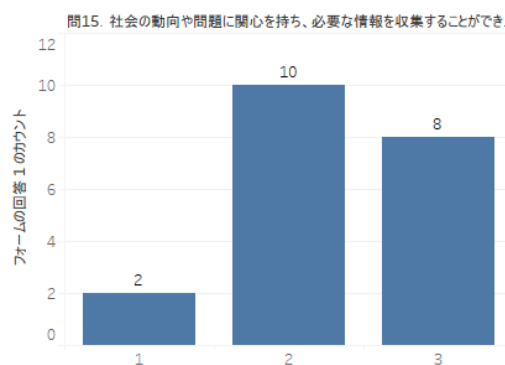
問 14. 自分の考えを的確に表現できるコミュニケーション力を身につけているか

数値	回答数	割合
1(低い)	2	10%
2	4	20%
3	10	50%
4(高い)	4	20%



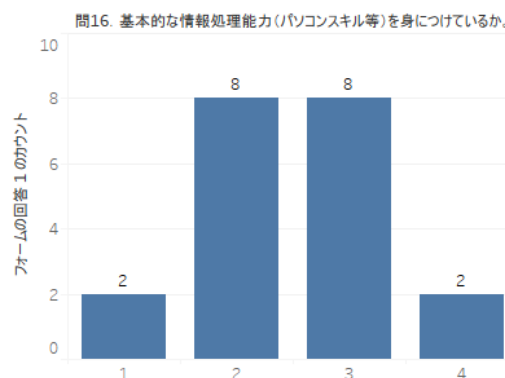
問 15. 社会の動向や問題に関心を持ち、必要な情報を収集することができるか

数値	回答数	割合
1(低い)	2	10%
2	10	50%
3	8	40%
4(高い)	0	0%



問16. 基本的な情報処理能力(パソコンスキル等)を身につけているか

数値	回答数	割合
1(低い)	2	10%
2	8	40%
3	8	40%
4(高い)	2	10%

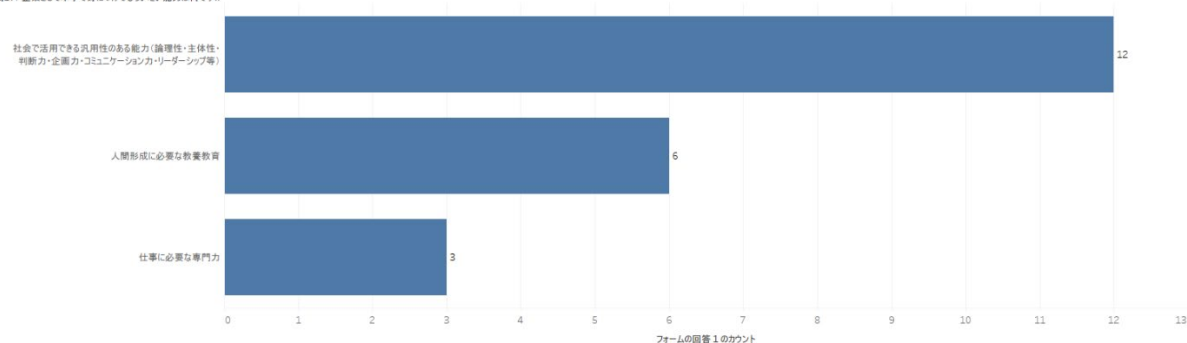


《本学に求めるもの、期待するものについて》

問 17. 企業として本学で身につけてもらいたい能力は何ですか(1 つだけ)

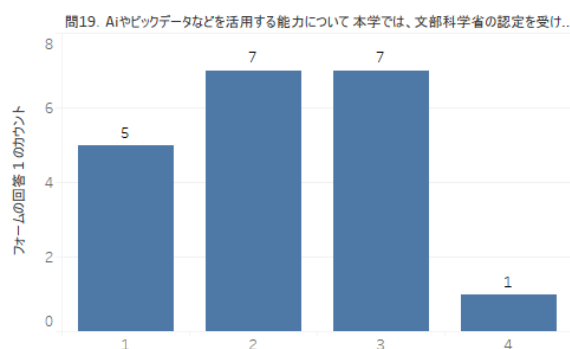
能力	回答数	割合
社会で活用できる汎用性のある能力	12	57%
人間形成に必要な教養教育	6	29%
仕事に必要な専門力	3	14%

問17. 企業として本学で身につけてもらいたい能力は何です..



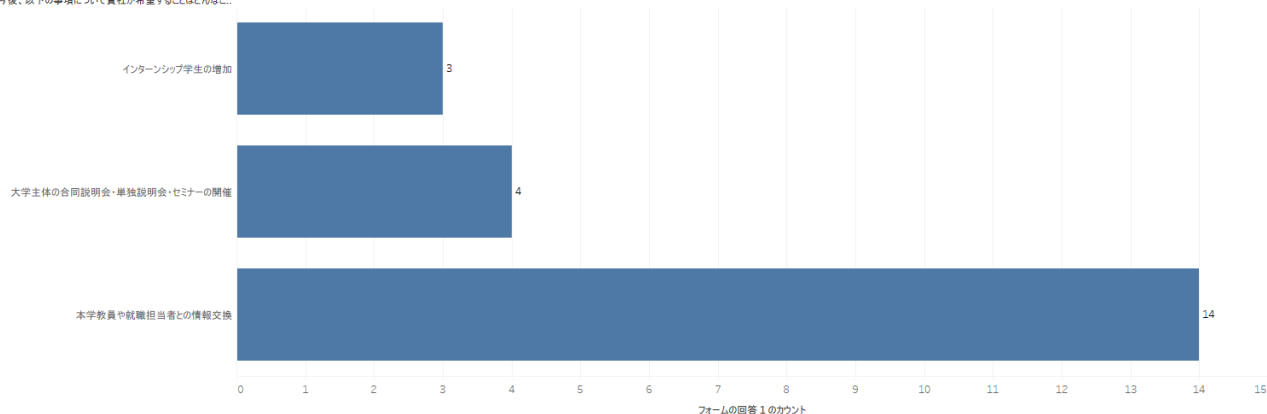
問 18. 今後、以下の事項について貴社が希望することはどんなことですか(1 つだけ)

数値	回答数	割合
1(低い)	5	25%
2	7	35%
3	7	35%
4(高い)	1	5%



希望事項	回答数	割合
インターンシップ学生の増加	3	14.3%
大学主体の合同説明会・単独説明会・セミナーの開催	4	19%
本学教員や就職担当者との情報交換	14	67%

問18. 今後、以下の事項について貴社が希望することはどんなこと...



《その他》

問 19.AI やビックデータなどを活用する能力について

本学では、文部科学省の認定を受けたプログラムを全学生に提供しています。データサイエンス・AI 活用能力は身につけていますか

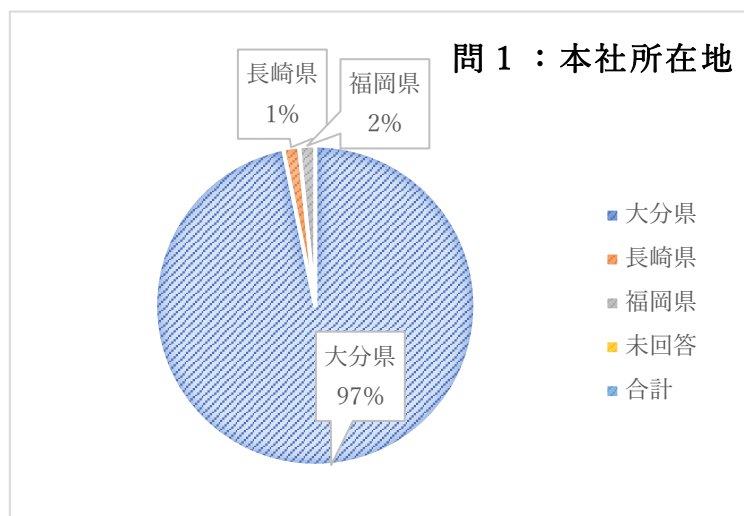
問 20.その他、自由意見を記載をお願いします

- よく、頑張ってくれています。
- 良い人材がいるから安心して求人ができます。頼りにしております
- 良い人材を育てていただきたいです。
- いつも優秀な学生をご紹介いただき、ありがとうございます。弊社としましては新卒の皆さまが働きやすい環境を整えているところです。今後ともよろしくお願いいたします。
- 学んだ事を早く実践したい気持ちはわかるが、まずは謙虚な姿勢でやり方を学んで欲しい。その後に改革する事は大変望ましいと思います。
- 社会に出て働くうえで、自分の考え方次第で仕事への取り組み方は変わってくるという意識を持って欲しい。仕事環境に問題があることも多分にあるが、自身の考え方、行動次第でホワイトにもブラックにもなると思います。
- 弊社の業務では行わない内容など、評価いたしかねる設問につきましては評価 1 とさせていただきます。
- 今年度採用者は、まだまだ現場での職務に一生懸命で、柔軟な対応などはこれから出来るようになってくると思います。15 年以上勤務している方は、柔軟な対応や自主性、協調性、専門性が高いので、これからも期待しています。
- 今後もよろしくお願い申し上げます。

初等教育科【送付：135 回答:64 件 回答率 47.4%】

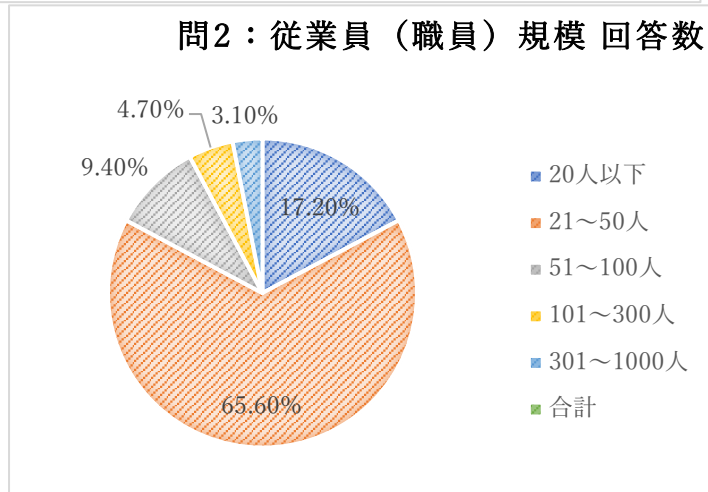
問1:本社所在地

所在地	回答数	割合
大分県	61	96.8%
長崎県	1	1.6%
福岡県	1	1.6%
未回答	1	
合計	63	



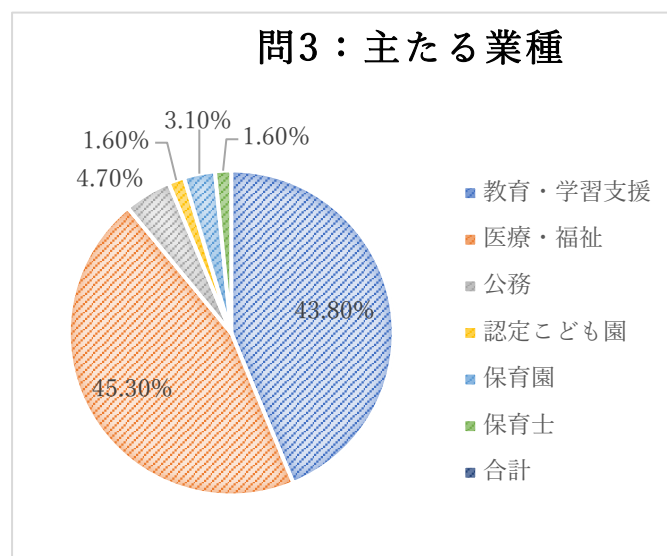
問2:従業員(職員)規模

従業員数・職員数	回答数	割合
20人以下	11	17.2%
21～50人	42	65.6%
51～100人	6	9.4%
101～300人	3	4.7%
301～1000人	2	3.1%
合計	64	



問3:主たる業種

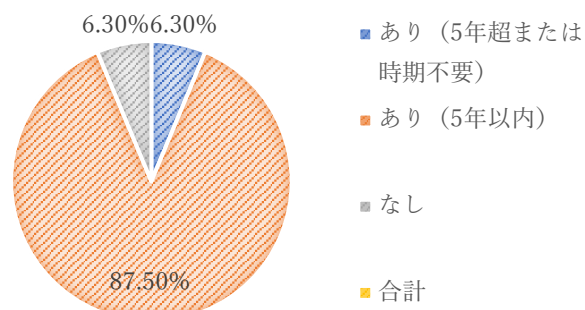
業種	回答数	割合
教育・学習支援	28	43.8%
医療・福祉	29	45.3%
公務	3	4.7%
認定こども園	1	1.6%
保育園	2	3.1%
保育士	1	1.6%
合計	64	



問 4:本学からの採用実績

採用実績	回答数	割合
あり(5 年超または時期不要)	4	6.3%
あり(5 年以内)	56	87.5%
なし	4	6.3%
合計	64	

問4：本学からの採用実績



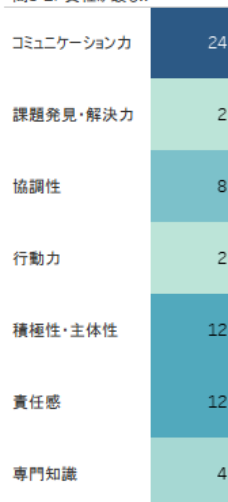
問 5-1:貴社が最も求める(重視する)能力はどのような能力ですか

問 5-2:貴社が 2 番目に求める(重視する)能力はどのような能力ですか

問 5-3:貴社が 3 番目に求める(重視する)能力はどのような能力ですか

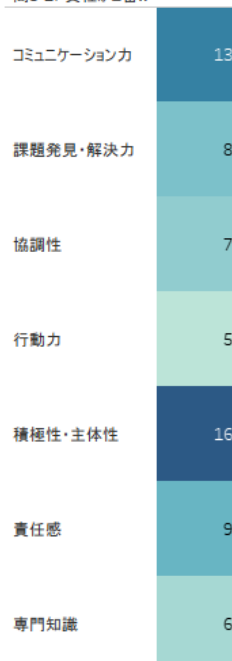
問5-1. 貴社が最も求める(重視する)能力はどのような能力ですか

問5-1. 貴社が最も...



問5-2. 貴社が2番目に求める(重視する)能力はどのような能力ですか

問5-2. 貴社が2番...



問5-3. 貴社が3番目に求める(重視する)能力はどのような能力ですか

問5-3. 貴社が3番目に求める(重視..

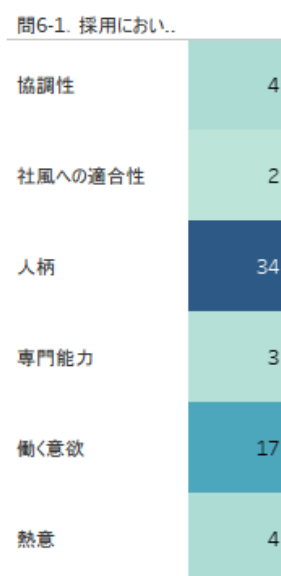


問 6-1:採用において最も重視する事柄は何ですか

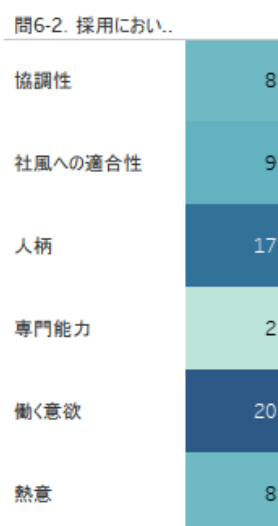
問 6-2:採用において 2 番目に重視する事柄は何ですか

問 6-3:採用において 3 番目に重視する事柄は何ですか

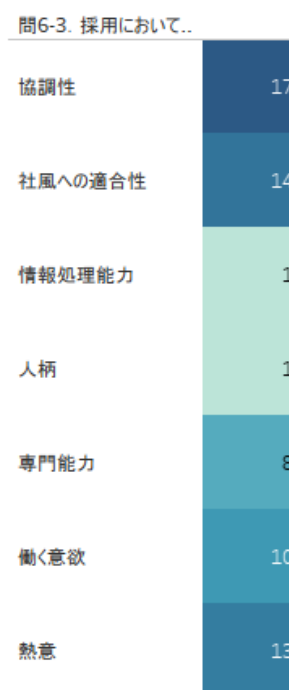
問6-1. 採用において最も重視する事柄は何ですか



問6-2. 採用において2番目に重視する事柄は何ですか



問6-3. 採用において3番目に重視する事柄は何ですか

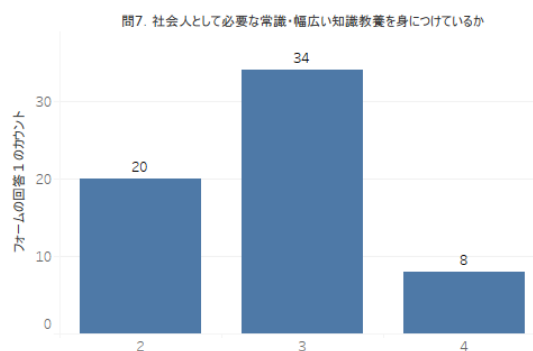


「本学から採用実績がある企業様へ、本学からの採用者について、次の項目について評価願います」

〈問 7～問 16 の項目について 1～4 で回答してください

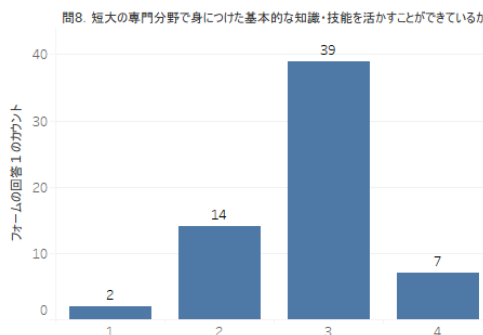
問7. 社会人として必要な常識・幅広い知識教養を身につけているか

数値	回答数	割合
1(低い)	0	0%
2	20	32.3%
3	34	54.8%
4(高い)	8	12.9%



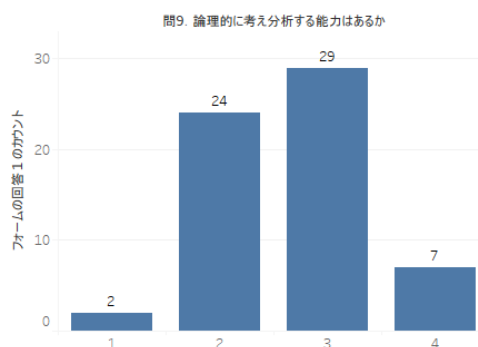
問8. 大学の専門分野で身に着けた基本的な知識・技能を活かすことができるか

数値	回答数	割合
1(低い)	2	3.2%
2	14	22.6%
3	39	62.9%
4(高い)	7	11.3%



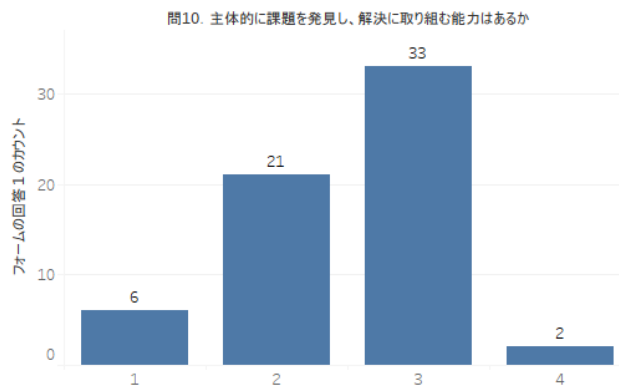
問9. 論理的に考え分析する能力はあるか

数値	回答数	割合
1(低い)	2	3.2%
2	24	38.7%
3	29	46.8%
4(高い)	7	11.3%



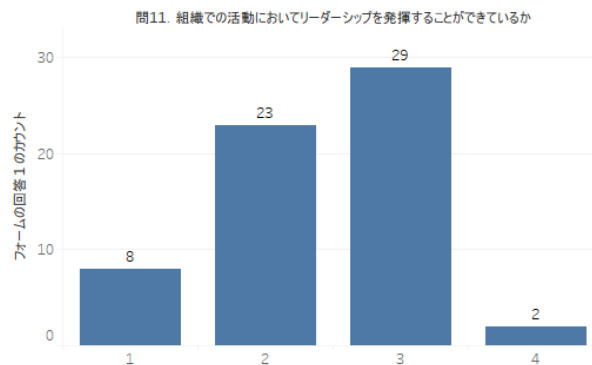
問10. 主体的に課題を発見し、解決に取り組む能力はあるか

数値	回答数	割合
1(低い)	6	9.7%
2	21	33.9%
3	33	53.2%
4(高い)	2	3.2%



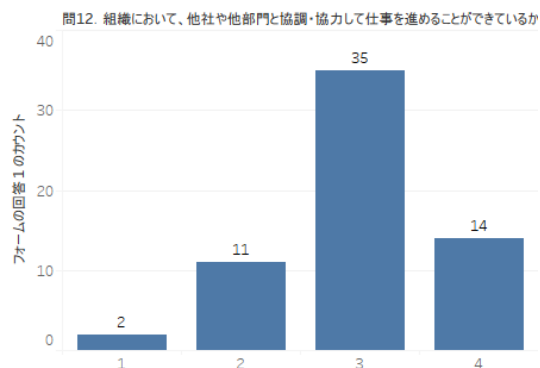
問11. 組織での活動においてリーダーシップを発揮することができるか

数値	回答数	割合
1(低い)	8	12.9%
2	23	37.1%
3	29	46.8%
4(高い)	2	3.2%



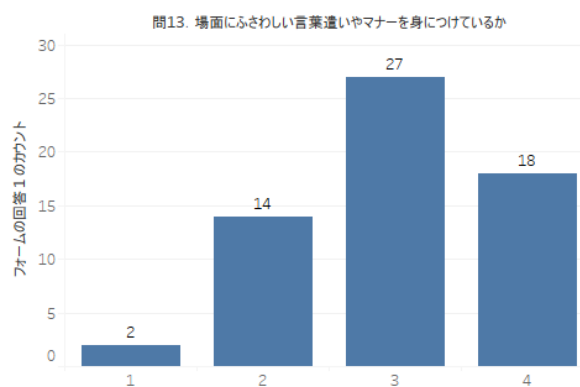
問 12. 組織において、他社や他部門と協調・協力して仕事を進めることができるか

数値	回答数	割合
1(低い)	2	3.2%
2	11	17.7%
3	35	56.5%
4(高い)	14	22.6%



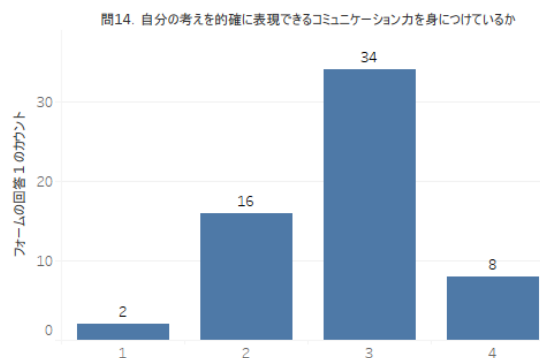
問 13. 場面にふさわしい言葉遣いやマナーを身につけているか

数値	回答数	割合
1(低い)	2	3.3%
2	14	23.0%
3	27	44.3%
4(高い)	18	29.5%



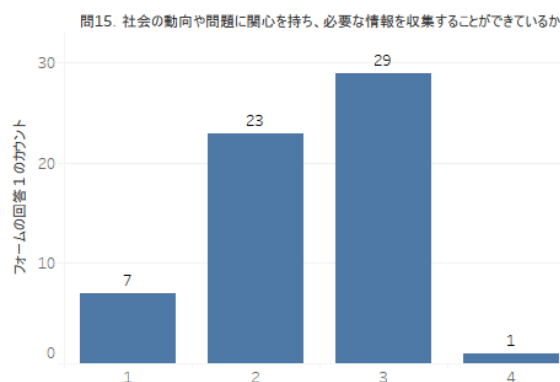
問 14. 自分の考えを的確に表現できるコミュニケーション力を身につけているか

数値	回答数	割合
1(低い)	2	3.3%
2	16	26.7%
3	34	56.7%
4(高い)	8	13.3%



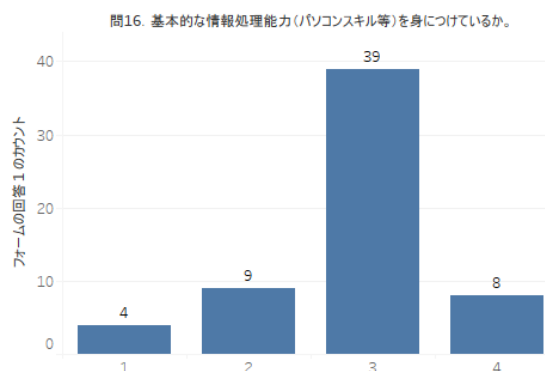
問 15. 社会の動向や問題に関心を持ち、必要な情報を収集することができるか

数値	回答数	割合
1(低い)	7	11.5%
2	24	39.3%
3	29	47.5%
4(高い)	1	1.6%



問 16. 基本的な情報処理能力(パソコンスキル等)を身につけているか

数値	回答数	割合
1(低い)	4	6.5%
2	9	14.5%
3	40	64.5%
4(高い)	9	14.5%

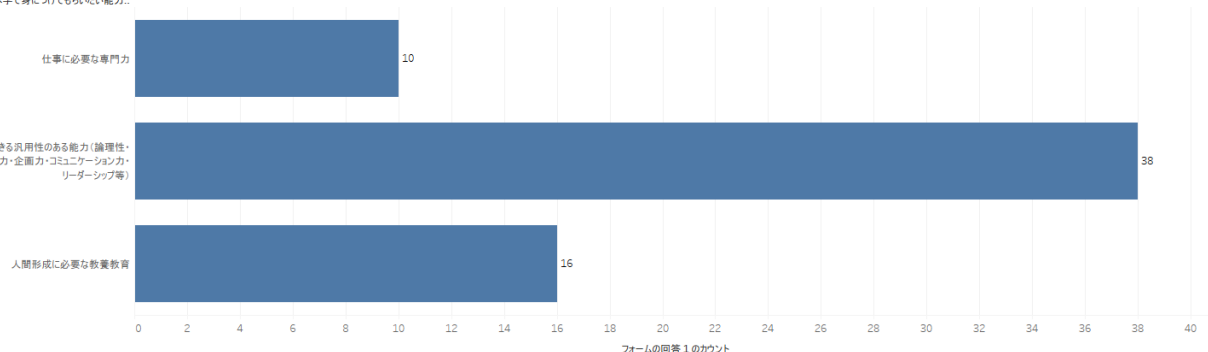


「本学に求めるもの、期待するものについて」

問 17. 企業として本学で身につけてもらいたい能力は何ですか(1 つだけ)

能力	回答数	割合
社会で活用できる汎用性のある能力	10	15.6%
人間形成に必要な教養教育	16	25%
仕事に必要な専門力	38	59.4%

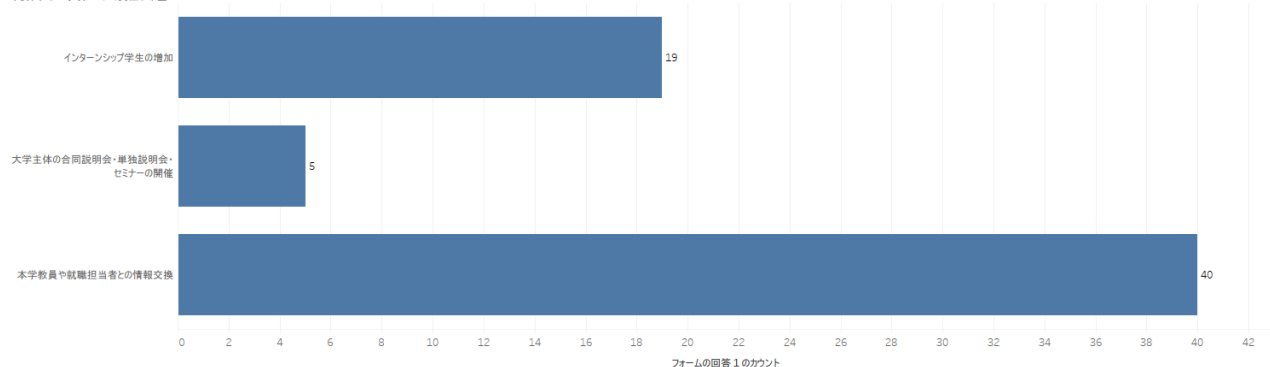
問17. 企業として本学で身につけてもらいたい能力..



問 18. 今後、以下の事項について貴社が希望することはどんなことですか(1 つだけ)

希望事項	回答数	割合
インターンシップ学生の増加	19	29.7%
大学主体の合同説明会・単独説明会・セミナーの開催	5	8%
本学教員や就職担当者との情報交換	40	62.5%

問18. 今後、以下の事項について貴社が希望..

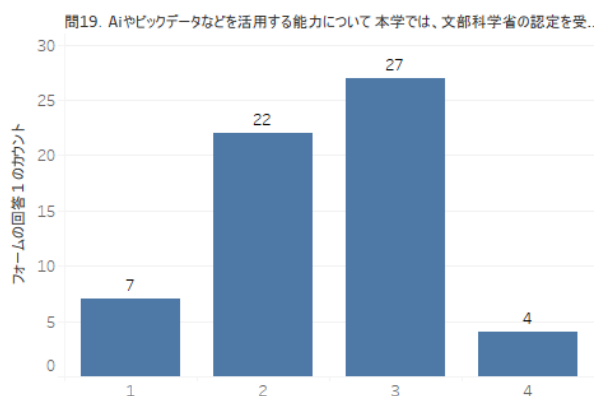


<<その他>>

問 19.AI やビックデータなどを活用する能力について

本学では、文部科学省の認定を受けたプログラムを全学生に提供しています。データサイエンス・AI 活用能力は身につけていますか

数値	回答数	割合
1(低い)	7	11.3%
2	24	38.7%
3	27	43.5%
4(高い)	4	6.5%



問 20.その他、自由意見を記載お願いします

- ・社会人としてのマナーができていることを(挨拶やことば使い)希望します。
- ・今年、メンタルが弱く、続かない職員がいた。5月末で退職となった。コミュニケーションがとれなかったのか、職員の輪に入れず退職となってしまった。コミュニケーションや、失敗する経験など学生のうちに勉強しておいてほしい。
- ・すごくよく働いてくれています。
- ・幼児教育の基礎である保育理論が、現在の保育指針や保育要領に繋がっている事を教えて欲しい。
- ・いつも大変お世話になっております。毎年、当センターの求人にご応募いただきありがとうございます。今年度も引き続き、よろしくお願い致します。
- ・若いながらも意欲的で真面目に職務に取り組む人材が多いと感じています。これからも良い人材を送り込んでほしいと願っています。
- ・保育日誌が正しく書けるようにしておいてほしいです。
- ・設問内にある「社会人として」は回答者の主観に依るため答えづらいです。これによらず設問に曖

味さがあるためデータとして有用なのか疑問が残ります。また、学生の力を発揮させるには、相応の知識がある先輩社員と御縁があってから実現できるものであり、逆に力があっても能力の無い先輩社員だと学生の可能性を潰してしまいかねません。ゆえに、これからは就職先のスクリーニング、就職先の評価も必要なのではないでしょうか。未来ある学生を活かすも殺すも、既に社会に出ている私たちであることを自覚する必要があると再認識することができました。ありがとうございました。

- ・今後とも、社会における保育幼児教育の重要性を伝えていただきたいです。
- ・就職後、私達がどう育てるかが課題です。
- ・問 7～16 に関して、対象者が複数人おり、それぞれ違う為、答えにくさがありました。
- ・4 大の卒業生は社会人としての知識はある程度あるが、短大の学生さんは未熟。
- ・今後も末永いお付き合いの程、宜しく願い致します。
- ・同 4 年生大学の卒業生については、1 ポイント高く評価をしている
- ・多忙にも関わらず、日々、たいへんよく頑張ってくれています。今後の成長にも期待しています。
- ・問 19 について、具体的にどういうことなのか当方が把握できていないので能力が身についているかわからない。また本人が発揮する場を設けることが出来ていない。貴大学より複数名の方を採用しているので、能力は人によるから判定が難しかった。今年入職した方についてという観点で判定しました。
- ・これまでは、自分の得意なことを積極的に表現したり、先輩からの助言を真摯に受けとめたり、分からないことを質問したりすることが多く、職場全体で良い関係づくりが出来ていた。近年、指導・助言をする側もされる側も、相互理解が難しい。理想と現実の差があるのかもしれないが、社会とは、働くとは、この職種内容はなど、出来るだけ理解をして欲しいと思う。
- ・優秀な学生が多く大きな戦力になっています。学生と施設側との交流の場を設定してほしい。
- ・子ども主体の流れが教育現場には浸透してきているが、教育者が主体的でない場面が見受けられる。主体的に考える教育者を育てる事が学校や施設でも課題にあがる。
- ・責任感が薄い
- ・貴校出身者は本法人が行う保育業務の中心的な役割を担っている

「別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー」に基づく雇用主アンケートの結果による DP 達成度評価

「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領

令和元年 6 月 12 日
短大企画運営会議

目的

別府大学短期大学部「アセスメント・ポリシー」では学修到達状況の評価指標の一つに「卒業生調査による「卒後評価」」が定められている。このアセスメント・ポリシーに基づき、「平成 30 年度卒業生・雇用主アンケート」の結果から DP 達成度を評価し、現在の教育・研究内容の課題を明らかにすることを目的とする。

実施方法

- (1) 「平成 30 年度卒業生・就職先アンケート」の結果を踏まえ、各学科の DP 3 領域 15 項目（教養 5 項目、専門 6 項目、汎用 4 項目）について、それぞれ 4 段階で到達度を評価し、その判断理由を 200 字程度で記入する。
- (2) 4 段階の評価基準は次の通りとする。

評価	評価の基準
4	DP の達成度が 80%～100%
3	DP の達成度が 60%～80%
2	DP の達成度が 40%～60%
1	DP の達成度が 40%以下

- (3) DP 到達度の評価は、1 項目を 2 名以上の教員で評価することとし、また、出来るだけ多くの教員で分担して実施する。
- (4) 3 領域（教養、専門、汎用）毎に達成度及び前回評価結果からの改善についての総評を 200 字程度で記入する。
- (5) DP 到達度評価は評価用紙に記入する。各学科で評価結果をとりまとめて学科長が学長補佐（教務担当）に提出する（7 月 26 日（金）を〆切とする）。

評価結果の集約

各学科の DP 到達度評価結果は学長補佐（教務担当）が集約する。

評価結果の報告

全体の評価結果は学長に報告した後に短大企画運営会議で報告する。

別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー

平成30年9月12日

別府大学短期大学部学長裁定

1. 目的

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、厳格で客観的・公正な成績評価を行ない、かつ、成績評価を含めた複数の方法で学生の学修到達状況を多角的・総合的に評価することによって、教育の質の向上及び教育の質の保証を行う。

2. 成績評価

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、シラバスに明示した授業の到達目標及び評価方法並びに学科履修規程に明記された成績評価の区分によって、厳格で客観的・公正な成績評価を行う。

3. 成績評価を含めた多角的な学修到達状況の評価

別府大学短期大学部は、2. の成績評価に加え、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、各学科・課程等（学位又は教育プログラム策定単位）を基本に、その学修内容等に応じ、下記から選択した複数の方法で学生の学修到達状況や達成すべき質的水準を多角的・総合的・客観的に検証（測定）・評価する。このことによって、ディプロマ・ポリシーを起点としたPDCAサイクルを回し、授業内容、授業方法、評価基準、カリキュラム、入学者選抜などについて改善を図るとともに、ディプロマ・カリキュラム・アドミSSIONの各ポリシーについて必要な見直しを行う。さらに、学修成果(到達目標)の達成度評価を集約し、別府大学短期大学部全体の学修成果の達成状況を評価する。

① ポートフォリオ学修支援システムでの「学生による評価」

学生自身が、ポートフォリオ学修支援システムを利用して、学修成果(到達目標)の達成度を自己評価する。

② 口頭試問での「教員による評価」

卒業時に修得することが期待される学修成果(到達目標)を、発表または口頭試問によって評価する。

③ まとめ試験による「客観評価Ⅰ」

科目区分毎に「まとめ試験」による内部アセスメントテストを行い、修得することが期待される学修成果(到達目標)について達成度を確認する。

④ 外部テスト等による「客観評価Ⅱ」

客観的な評価を行うために、外部テストなどを利用した学修成果(到達目標)の達成状況を評価する。

⑤ 卒業生調査による「卒後評価」

別府大学短期大学部での教育への評価、職業生活や社会生活での必要な知識と能力、別府大学短期大学部への希望などについて、卒業生への調査を行うことで、学修成果（到達目標）の達成状況を評価する。

⑥ 地元社会・産業界からの「外部評価」

在学生においては、実習先訪問や実習連絡会議等を通して、学外実習先の企業や施設などでの学生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。卒業生においては、就職先の企業等での卒業生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。

⑦ 卒業時における学習成果達成度調査

卒業年次生を対象に、本学の DP（ディプロマ・ポリシー）に定める学修成果の目標に対する達成状況を調査する。

⑧ CP（カリキュラム・ポリシー）等に基づく教育課程プログラムの成果の検証

各科目や学科ごとの GP の分布、DP の達成状況、免許・資格の取得状況、就職状況等を調査し、その結果に基づき、教育課程の適切性を検証する。

令和 6 年 3 月 5 日改定

食物栄養科「雇用主アンケート」による DP 達成度評価

食物栄養科は、本学の定める課程を修了し、「教養」、「専門力」、「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に短期大学士(栄養学)の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

4段階の評価基準は次の通りとする。

評価	評価の基準
4	DP の達成度が 80%～100%
3	DP の達成度が 60%～80%
2	DP の達成度が 40%～60%
1	DP の達成度が 40%以下

問 7 は教養、問 8 は専門力、問 9、10 は汎用力の中の思考力、問 11、12 は汎用力の中の実行力、問 13、14 は汎用力の中の表現力、問 15、16 は汎用力の中の情報力について調査を行った。

1. 教養(人間性の形成に資する幅広い知識、技能)

・社会人として必要な常識・幅広い知識教養を身につけているか(問7)

評価(1～4)	理由
3	常識・幅広い知識教養を身につけているかの問いについて、4 段階評価のうち、やや高いとされる3の評価が最も多く(45%)、また 3 及び 4 の評価をしたのは全体の 60%であり、雇用主の約 6 割から肯定的な評価をいただいた。前年度も基礎的な教養の修得について肯定的な評価は同じく 6 割であり、前年度と同様の評価であった。また否定的な評価とされる2の評価が 35%であることから、一部の卒業生については教養が身につけていないとの評価であったため、教養の DP 達成度は評価を 3 とした。企業側が身につけてもらいたい能力(問 17)として、「人間形成に必要な教養教育」が約 3 割であったことから、今後も進路指導や就職ガイダンス等を通して、社会生活に必要な基本的な知識や技能が修得できるよう指導を強化していきたい。

2. 専門力(専門に関する基本的な知識、技能)

・大学の専門分野で身につけた基本的な知識・技能を活かすことができるか(問8)

評価(1～4)	理由
---------	----

3	専門分野で身につけた知識・技能の修得に関しては、4 段階評価のうち、やや高いとされる3の評価が最も多く(40%)、また 3 及び 4 の評価をしたのは全体の 60% であり、教養と同じく雇用主の約 6 割から肯定的な評価をいただいた。前年度は約 5 割であったことから、肯定的な評価がやや高くなっていた。また否定的な評価とされる2の評価が 30%であることから、教養と同じく一部の卒業生については専門力が身につけていないとの評価であったため、専門力の DP 達成度評価を 3 とした。今後も専門科目の授業や学外実習等を通して、専門に関する基本的な知識、技能が修得できるよう指導し、特に就職先に合わせて個々に伸ばしていけるよう指導を強化していきたい。
---	--

3. 汎用力(社会で活躍できる汎用性のある能力)

(1)思考力

- ・論理的に考え分析する能力はあるか(問9)
- ・主体的に課題を発見し、解決に取り組む能力はあるか(問10)

(評価(1～4))	理由
3	論理的に考え分析する能力に関しては、4 段階評価のうち、やや高いとされる 3 の評価が最も多く(55%)、4 の評価は 0%であった。また、主体的に課題を発見し、解決に取り組む能力に関しても、4 段階評価のうち、やや高いとされる 3 の評価が最も多く(50%)、4 の評価は5%であった。この 2 つの問いから、思考力の修得に関して雇用主の約 5～6 割が肯定的な評価であった。前年度の約 5 割を比較するとやや高い評価であったため、DP 達成度を 3 とした。企業側が身につけてもらいたい能力(問 17)として、「社会で活用できる汎用性のある能力」が約6割であったことから、今後も実習・実験などの授業において思考力を高める授業内容を実施していきたい。

(2)実行力

- ・組織での活動においてリーダーシップを発揮することができるか(問11)
- ・組織において、他社や他部門と協調・協力して仕事を進めることができるか(問12)

(評価(1～4))	理由
3	リーダーシップを発揮しているかの問いでは、4 段階評価のうち、やや低いとされる2の評価が最も多く(60%)、3 及び4の評価は 30% であり、肯定的な評価に比べて否定的な評価の割合が高かった。また、

	協調・協力して仕事を進めることができるかの問いでは、4 段階評価のうち、やや高いとされる 3 の評価が最も多く(65%)、3及び 4 の評価は全体の75%であり、肯定的な評価の割合が高かった。実行力の修得に関して、卒業生の多くはリーダーシップを発揮するまでには至っていないが、協調しながら協力して仕事を進めることができているとの高い評価であったことから、DP 達成度を 3 とした。今後、より高い実行力を身に付けるためにも、実習・実験などの授業や課外活動等を通して、リーダーシップを発揮できる力を身につけられよう検討していきたい。
--	--

(3)表現力

- ・場面にふさわしい言葉遣いやマナーを身につけているか(問13)
- ・自分の考えを的確に表現できるコミュニケーション力を身につけているか(問14)

(評価(1～4))	理由
3	言葉遣いやマナーに関しては、4 段階評価のうち、やや高いとされる 3 の評価が最も多く(55%)、3及び4の評価が全体の 75%であった。雇用主の約 8 割から肯定的な評価が得られた。またコミュニケーション力に関しては、4 段階のうち、やや高いとされる 3 の評価が最も多く(50%)、3 及び 4 の評価が全体の70%であった。企業側が最も求める能力(問 5)ではコミュニケーション力が最も高いことから、卒業生の多くが身につけることができているといえる。この 2 つの問いから、卒業生の表現力の修得に対する評価は大変高く、否定的な評価も約 3 割程度であったことから、DP 達成度を3とした。今後も表現力が高められよう、学内外の活動においてプレゼンテーションの場や異年齢と関わる活動の場を取り入れていきたい。

(4)情報力

- ・社会の動向や問題に関心を持ち、必要な情報を収集することができるか(問15)
- ・基本的な情報処理能力(パソコンスキル等)を身につけているか(問16)

(評価(1～4))	理由
3	情報収集力に関しては、4 段階評価のうち、やや低いとされる2の評価が最も多く(50%)、次に3の評価が40%であった。肯定的な評価よりも否定的な評価が高い結果であった。また、情報処理能力に関して

	は、4段階評価のうち、3及び4の肯定的な評価が約5割、また1及び2の否定的な評価が約5割と同等の評価であった。前年度の肯定的な評価は約4割であったことから、DP達成度は3とした。情報力の修得に関しては、約5割の卒業生が修得できているとの評価であったが、約半数の卒業生は修得できていないことから、今後は情報リテラシーや専門科目でのレポート作成等において、情報収集力や情報処理能力の強化を図っていききたい。
--	--

4. 総評

今回の調査結果より、卒業生の約6割が社会人として必要な教養や専門力を身につけていると評価され、また汎用力において表現力では約7割、思考力・実行力・情報力では約5～6割が身につけていると評価されたことから、項目によって差は生じているが、概ね本学の教育の成果が表れているといえる。企業側が求める能力(問17)として、「社会で活用できる汎用性のある能力」が最も高いことから、思考力・実行力・表現力・情報力の修得を目指し、特に汎用力の中でも評価の低かったリーダーシップを発揮する能力や情報収集力の修得に関しては、今後さらなる改善策を検討していききたい。

初等教育科「雇用主アンケート」による DP 達成度評価

初等教育科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に、短期大学士(教育学)の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

4段階の評価基準は次の通りとする。

評価	評価の基準
4	DP の達成度が 80%～100%
3	DP の達成度が 60%～80%
2	DP の達成度が 40%～60%
1	DP の達成度が 40%以下

問 7 は教養、問 8 は専門力、問 9、10 は汎用力の中の思考力、問 11、12 は汎用力の中の実行力、問 13、14 は汎用力の中の表現力、問 15、16 は汎用力の中の情報力について調査を行った。

1. 教養(人間性の形成に資する幅広い知識、技能)

・社会人として必要な常識・幅広い知識教養を身につけているか(問7)

評価(1～4)	理由
3	教養に関する質問については 4 段階評価のうち、3 及び 4 の評価は全体の 67.7%で、6 割を越える雇用主から肯定的な評価をいただいた。前年度は 60%であったので、若干の上昇傾向が認められた。一方で、2 の評価は 32.3%、1 の評価は 0%であったことから昨年度の 2 及び 1 の評価の 18.3%を上回る結果となり、全体の約 3 割の雇用主は社会人として必要な常識・幅広い知識教養を十分に身につけていないと判断している状況が示されたため評価を3とした。学生の能力が二極化するなかで、社会的な常識・知識等の修得が難しい学生の個別化した支援を検討する必要があると考えられる。

2. 専門力(専門に関する基本的な知識、技能)

・大学の専門分野で身につけた基本的な知識・技能を活かすことができるか(問8)

評価(1～4)	理由
3	専門分野で身につけた知識・技能の修得に関しては、4 段階評価のうち、やや高いとされる3の評価が最も多く(62.9%)、また 3 及び 4 の評価をしたのは全体の 74.2%であり、雇用主の約7割から肯定的な評価をいただいた。前年度は約 5 割で

	あったことから、肯定的な評価が大幅に上昇した。一方で、一部の卒業生については専門力が身につけていないとの評価であったため、専門力の DP 達成度評価を 3 とした。本学卒業生への専門力の修得について一定の評価を得ているが、2年間という短い期間であることの理解を示しながらも知識・技能のより一層の研鑽についての要望に加え、主体的な活動への参加も求められていたことから、授業をはじめ学校行事、研究会活動、ボランティア活動等の充実を図る必要がある。
--	---

3. 汎用力(社会で活躍できる汎用性のある能力)

(1)思考力

- ・論理的に考え分析する能力はあるか(問9)
- ・主体的に課題を発見し、解決に取り組む能力はあるか(問10)

(評価(1～4))	理由
3	論理的に考え分析する能力に関しては、4 段階評価のうち、やや高いとされる 3 の評価が最も多く(46.8%)、4 の評価は 11.3%であった。また、主体的に課題を発見し、解決に取り組む能力に関しても、4 段階評価のうち、やや高いとされる 3 の評価が最も多く(53.2%)、4 の評価は 3.2%であった。この 2 つの問いから、思考力の修得に関して雇用主の約 5 割が肯定的な評価であった。前年度の約 5 割とほぼ変わらない水準のため、DP 達成度を 3 とした。企業側が身につけてもらいたい能力(問 17)として、「社会で活用できる汎用性のある能力」が約6割であったことから、在学中から「社会に出てからも主体的に学び続ける意欲や姿勢」が求められていることを伝え、指導する必要があると考える。

(2)実行力

- ・組織での活動においてリーダーシップを発揮することができるか(問11)
- ・組織において、他社や他部門と協調・協力して仕事を進めることができるか(問12)

(評価(1～4))	理由
3	リーダーシップに関する問いでは、4 段階評価のうち、3 及び4の評価が50%であった。一方で 1 及び2の否定的な評価も 50%であることから 2 極化の傾向がうかがえた。また、協調・協力して仕事を進めることができるかの問いでは、4 段階評価のうち、やや高いとされる 3 の評価が最も多く(56.5%)、3及び 4 の評価は全体の 79.1%であり、

	約 8 割の雇用主から肯定的な評価が得られた。他者と協調・協力して物事をやり遂げることが得意なのは本学科の卒業生および学生の良さであり、大切にしたい部分でもある。今後も授業内での演習、グループ活動を通して学生の持つ良い部分をさらに伸ばしていきたい。
--	--

(3)表現力

- ・場面にふさわしい言葉遣いやマナーを身につけているか(問13)
- ・自分の考えを的確に表現できるコミュニケーション力を身につけているか(問14)

(評価(1～4))	理由
3	言葉遣いやマナーに関しては、4 段階評価のうち、3及び4の評価が全体の 73.8%であった。またコミュニケーション力に関しては、4 段階のうち、やや高いとされる 3 の評価が最も多く(56.7%)、3 及び 4 の評価が全体の70%であった。否定的な評価は約 3 割程度であったことから、DP 達成度を3とした。自由記述でもコミュニケーション力を重要視している記述が散見されることから、引き続き実習指導や演習授業を通して適切なマナーやコミュニケーション能力を身につける指導をしていきたい。

(4)情報力

- ・社会の動向や問題に関心を持ち、必要な情報を収集することができるか(問15)
- ・基本的な情報処理能力(パソコンスキル等)を身につけているか(問16)

(評価(1～4))	理由
3	情報収集力に関しては、4 段階評価のうち、3および4の評価が49.1%であった。また、情報処理能力に関しては、4 段階評価のうち、3及び4の評価が79%であった。前年度の肯定的な評価は約3割であったので大幅に上昇している。パソコンスキルが上昇する一方で、社会問題への関心や情報の収集に関しては、約 5 割の卒業生が修得できていないとのことから、今後は情報リテラシー教育をはじめとする関連科目やレポート・指導案作成、実習指導において、情報収集力や情報処理能力の強化を図っていきたい。

4. 総評

今回の調査結果から、6～7割の卒業生が社会人として必要な教養や専門力をおおむね身につけていることがわかった。特に協調・協力して仕事をやり遂げる実行力やパソコンスキル等の情報処理能力は高い評価を得ており、本学科の教育の成果が表れていることが示された。一方で、全体の約 3 割の雇用主は社会人として必要な常識・幅広い知識教養を十分に身につけていないと判断している状況が示された。社会的な常識・知識等の修得が難しい学生の個別化した支援において、クラス担任をはじめとする学科教員の丁寧な個別指導の成果が得られるようにさらなる改善策を検討する必要があるといえる。